

平成 29 年度第 9 回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	平成 30 年 3 月 14 日（水）14 時 00 分～15 時 25 分	場所	1 号館 3 階会議室
出席者	懇話会委員：宇田川委員、小野委員、坂口委員、武藤委員（委員長）、目等委員（副委員長）、吉村委員		
	事務局	山辺企画政策部長、小川企画政策課長、上野主幹、緑川副主幹、藤崎副主幹、呉屋主査、橋主査	
	その他	傍聴人 0 名	
内 容			
<p>◆委員長挨拶</p> <p>今年度は本日も含めて 9 回にわたり議論をしてきたが、皆様の協力により、意見書の最終案が出来上がっている。本日はその内容を改めて確認し、会議終了後に市長へ提出したいと思うので、最後まで協力をお願いする。</p> <p>◆議事</p> <p>（1）平成 29 年度行政評価に関する意見について</p> <p>（委員長）それでは議案に入っていく。議案(1)平成 29 年度意見書（案）について事務局から説明を求めらる。</p> <p>（事務局（呉屋企画政策課主査））※意見書読み上げ</p> <p>（委員長）意見や修正点がありましたらお願いします。まずは私から。11 ページ、「◆子どもたちに住み続けてもらえるまちへ」の 2 段落目の最後に、「…就職先、結婚後の住みやすさまで地元にあるまちづくり」とあるが、ここを「…就職先、結婚後の住みやすさまで地元にある、そうしたまちづくり」としてはどうか。また、間違いではないが、同じページの下から 3 行目に「お茶を濁す」とあるが、この表現で良いか。</p> <p>（宇田川委員）分かり易いので私は良いと思う。</p> <p>（委員長）それではそこ（「お茶を濁す」）はそのままとする。12 ページの真ん中辺りに、「市民と行政が意見をキャッチボールできる場になれるか。」とあるが、ここは丸ではなく点で区切り、「…場になれるか、このような双方向の…」、としてはどうか。その他全体的な意見までのところで気付いた点はあるか。</p> <p>（坂口委員）12 ページの下のところ DMO の説明として、「DESTINATION・MANAGEMENT・ORGANIZATION」と記載されている。DMO には世界的に定まった定義はないが、観光庁のホームページを見ると、「MANAGEMENT」は「MARKETING・MANAGEMENT」とされており、学者等が書いたものを見ても「MARKETING」を入れるのが大半のようである。「MARKETING/MANAGEMENT」とスラッシュを入れてはどうか。また、最後に「観光地域作り」とあるが、「観光地域経営」の方が妥当である。日本語に直すと観光地域経営組織となる。</p> <p>（委員長）16 ページの下から 4 行目に「学校単位」とあるが、「学校区単位」の方が良いのではないか。</p> <p>（宇田川委員）「学校区単位」の方がよい。</p>			

(坂口委員) 新たに3ルートでコミュニティバスの運行が1月31日から開始されたが、ほとんど利用されていない印象。南部地域ルートは分からないが、志津北部ルートと畔田・下志津ルートについては、自分が見る限り、全く人が乗っていないこともある。時刻表がなく、1時間に1本しか走っていない。なぜ利用されないかを調査を行ってもらいたい。このことも意見として書いてはどうか。

(宇田川委員) デマンド交通での課題を活かすよう意見したが、3ルートの開始の際、バス停の近隣などへの市場調査を本当にやったのか懸念はある。宣伝をすれば多少増えるかも知れないが。

(坂口委員) コミュニティバスへの期待は大きい。自分も免許返納を検討する年齢であるが、あの状況を見ると不安である。都市計画課に実態を聞き、少し厳しく書いてはどうか。

(宇田川委員) もう少し検証すべきと書くか。

(事務局(山辺企画政策部長)) 議会でも質問があり、うろ覚えの部分もあるが、集計としては2~3週間のものではあるが、3ルートのうちでは志津北部ルートが利用者は一番多く、次に畔田・下志津ルートであり、南部は少ないようである。今後も注意深く検証する必要がある。なお、時刻表についても議会から指摘があり、それに対する答弁もあった。

(委員長) 「デマンド交通に代わり、コミュニティバスが導入されましたが、ユーザー目線での利用しづらさや周知方法の改善などを図って下さい。また、デマンド交通で課題と考えられた部分があれば、コミュニティバス事業に活かして下さい。さらに、民間介護施設…」とする。次に、20ページの【歴史資源と日本遺産の魅力発信】のところの3行目に、「市内の小中学生が国立歴史民俗博物館を訪れる機会を増やしたり」とあるが、全ての小中学生には既にそのような機会があるのか。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) ある。

(委員長) もっと機会を増やそうということか。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) 会議においては、学校の教育課程としてだけではなく、自発的に行くことも増やしていけないか、という趣旨で意見がなされていた。

(委員長) 市立美術館にも行くのか。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) 行く学校は歴博よりももっと少ないかも知れない。

(委員長) 佐倉城址公園はどうか。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) 遠足では行くことはある。草ぶえの丘へは、全ての学校が3~4年生を宿泊させている。

(委員長) それは歴史分野の施設ではない。ここはこのままでよい。次に、「ピーアール」と書くか、「PR」と書くか、役所が使う表記として、どちらが一般的か。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) 昔はカタカナが多かったが、最近はアルファベットが一般的になってきた。両方使われていると思う。

(委員長) アルファベットの方が多い印象。間違いではないが。

(坂口委員) アルファベットが多い。その方が締まる。

(委員長) ピーアールはアルファベットにする。19 ページの下から 2 行目、「ぞんざいにせず」についてはどうか。

(坂口委員) 「耳を傾け」としてはどうか。

(宇田川委員) 「ぞんざいにせず」を削除してもよいのでは。検討の方に意味がある。また、同じ項目の「臨むべきではないでしょうか」は、「臨むべきと思います」に改める。

(委員長) そのように修正する。また、24 ページの「ピーアール」を 2 か所直す。

(事務局 (呉屋企画政策課主査)) 【婚活支援の成果】のところにもあるので併せて修正する。

(事務局 (山辺企画政策部長)) 9 ページの「重要施策」を「重点施策」に統一した方がよいと思うがいかがか。

(事務局 (呉屋企画政策課主査)) 修正漏れなので修正する。また、Step2 のところの「佐倉市の魅力発信」は「佐倉の魅力発信」に修正する。

(宇田川委員) 24 ページ、佐倉学は素晴らしいと思うので、「郷土愛の醸成に繋がり、高く評価できます。」「ただし、それだけでは定住促進には結びつきません。」と文章を分けてはどうか。

(委員長) それでは指摘いただいた点を修正し、提出することとする。

(2) その他：平成 30 年度行政評価に向けて

(委員長) それでは、意見書の修正ができるまでの間、来年度の行政評価の進め方など、事務局から説明があればお願いします。

(事務局) 30 年度の行政評価事業に係る予算案は、現在、市議会 2 月定例会で審議中のため確定した内容ではないが、事務局としての見通しを説明する。

- ・評価対象は、重点施策 29 本すべて (予定)
- ・現委員は任期が満期を迎えるため、次期は新たに選ぶ必要がある。
- ・重点施策である総合戦略の進捗管理は産官学金労言士の識者及び市民を加えた評価委員会を設置することとされている。
- ・30 年度からの新たな行政評価懇話会委員は、公募市民と産官学金労言士分野の識者で構成した 7 名に委嘱するよう検討をしている。

(委員長) 次年度の行政評価について事務局から説明があった。我々は任期が切れるが、引き継いでほしい事柄や、今年度までの感想などご意見があればお願いします。

(委員長) 私は、最初に任命を受けた 2008 年からちょうど 10 年経過した。新しい方に代わってもよい時期と考えている。細かい事務事業の内容ではなく、より大きい施策の評価を、部長クラスの方と意見交換をするという仕組みの中、行ってきた。私達だけでやっていると実態が分からないところ、その点、率直に行政の意見を聞けて良かったと思っている。細かいことを知ることが必要な部分はあ

ると思うが、市民の立場から、全体が見えるような形で評価を行えるよう資料を作っていただくことが重要。そのような方向で続けるのがよいのではないか。ただし、次の委員の方がもっと細かいことを評価したいというなら、時間がたっぷりかかって大変だと思うが、それはそれでよいと思う。

(目等委員) 来年度以降、どういうメンバーになるかは分からないが、大きいところが見えないということのないよう、事前にしっかりと説明が必要。私は平成19年から関わってきたが、当時はまったく分からないまま出発した。事務局も大変であったかと思うが、四苦八苦してやってきた。どうしても細かい議論に入りがちであるが、しっかりと大枠を理解してもらうことが成功の秘訣ではないか。委員長の言うことは最もと考える。

(宇田川委員) 今年度の評価では、「全庁横断的な取り組みをすべき」ということが特徴的だ。これを踏まえ、周りを見渡して、横の連携にしっかりと取り組んでいただきたい。また、そのことを感じ取れるような行政評価をしてもらいたい。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) 意見書への対応を庁内で検討する際、どうしても所属単位になってしまうことを事務局としても懸案している。意見書への対応の方法についても研究が必要だ。

(宇田川委員) すぐに解決はしないが、発信していくことが重要だ。

(吉村委員) 宇田川委員と同じく、平成24年度から3期務め、いろいろな部局の人から説明が聞け、大変勉強になった。こちらが出した質問に対し答えるだけでなく、各部、困っていることや課題を挙げてもらい、いろいろな部署の間に融合させられるようになるとよい。この場がその交流・調整の場場となればよいと思う。

(宇田川委員) 前向きに取り組んでいる職員の背中を押してあげるような評価をしてあげるべきだ。

(小野委員) 2年務め、分からないままのことも多いが、大変勉強になった。日常聞けないことを聞くことができた。各所属の話聞いたのは良かったが、皆自分の所属の話が終わると書類を持って出て行ってしまふ。そのときだけでも残っていただきもっと交流できればよかったと思う。評価の内容については、私は市民目線で細かいところを指摘してしまうが、ここは施策評価の場だと改めて考えると、「先ほどの発言は適切であったか?」と考えてしまうことも多々あった。

(坂口委員) 慎重に発言してきたが、時々手厳しいと言われてきた。私は公募委員であるが、自分が発言したものを真剣にとらえてもらうことの面白味はあった。

(事務局(山辺企画政策部長)) 今年度の懇話会は今回で9回目となる。大変過酷なスケジュールであり、また、ワークショップに関しては大変朝早く集まっていたいただき、感謝している。評価していただいたことをフィードバックし、次のステップに繋げていきたい。議会でも、シティプロモーションに関しては厳しい意見や大きな期待があるが、我々は民間企業ではないので、これまで宣伝活動をやってこなかった。このことが、これから大きな課題になり続けると実感がある。この懇話会においても、これからも良きアドバイスを頂けたらと思う。

(委員長) それでは本日の議事はこれですべて終了した。

(3) 事務連絡

(委員長) 何か事務局よりご連絡はあるか。

(事務局) 未確定分の会議要録につきましては、本日の要録も含め、皆様に最終確認をいただいた後、ホームページに公表させていただく。

(15時25分 終了)